

環境活動レポート

2013



平成26年 5月発行

第10版：平成25年3月～平成26年2月実績



(株)グリーンロジスティクス
e-style camp



基本理念

株式会社グリーンロジスティクスは、廃棄物の中間処理・収集運搬業務を通じて、人と環境が調和し、共存できる循環型社会への構築に向けての地域環境保全に努めます。

行動指針

1. 環境負荷の低減を目指し、重要項目として下記の項目に重点を置き、計画的・継続的・効果的なCO2削減活動を行います。
 - ① 収集運搬車両及び重機等による燃料使用量の削減。
 - ② 産業廃棄物リサイクル率の向上。
 - ③ 水光熱使用量の削減。
 - ④ バイオディーゼル燃料(BDF)の普及。
2. 全社員が、地域社会における役割と責任を認識し、地域融和活動に努めます。
 - ① 第一に私達は、地域社会の一員であることを自覚します。そして、地域に対して「役立ちたい」というもっとも高い価値観を共有します。
 - ② 地域の企業・環境団体や行政との連携を深く図り、地域が参加できる環境保全活動を企画・実践します。そして、知識・情報を共有し環境ネットワークづくりに努め、地域社会にも広く発信します。
3. 環境関連法規・条例・要綱及び全ての要求事項を遵守します。
4. あらゆる人に環境レポートを公開し、地域環境コミュニケーションの形成のための協力と理解を求めます。

制定日 平成17年5月1日
最終改訂日 平成21年6月10日

株式会社 グリーンロジスティクス

代表取締役 岩崎 浩



事業概要 1

●事業名称及び代表者名

株式会社 グリーンロジスティクス 代表取締役 岩崎 浩

●所在地

- 管理事務所・選別棟 熊本県菊池郡大津町杉水 2506 番地
- 圧縮・破碎棟 熊本県菊池郡大津町杉水 2509 番地 1

●資本金

1000 万円

●設立

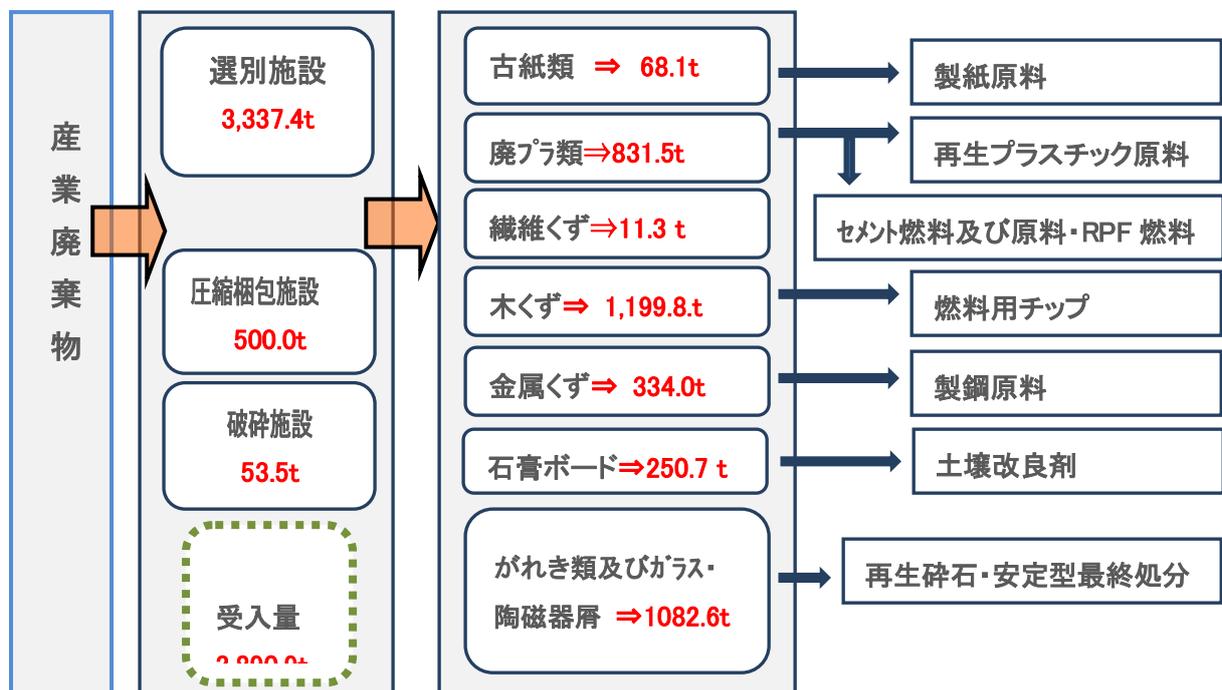
平成 4 年 12 月 21 日

●事業内容

- 産業廃棄物の中間処理(選別・破碎・圧縮)及び収集運搬
- 一般廃棄物の収集運搬
- 有価物(古紙・再生樹脂)の回収・加工・販売

中間処理施設の処理フローとマテリアルバランス

有価売却及び処理委託⇒ 3,779.0t





事業概要 2

●許可内容

NO	許可の種類	自治体	許可番号	許可年月日	有効年月日
1	一般廃棄物収集運搬業	大津町	第 10 号	H26.4.1	H28.3.31
2		菊池市	菊市環許第 1108 号	H25.4.1	H27.3.31
3		合志市	合志市令第 8 号	H25.4.1	H27.3.31
4		菊陽町	指令環第 632 号	H26.4.1	H28.3.31
5		熊本市	第 13R-83 号	H25.4.1	H27.3.31
6		益城町	第 14-8 号	H26.4.1	H28.3.31
7		西原村		H25.4.1	H27.3.31
8	産業廃棄物収集運搬業	熊本県	第 04300008464 号	H20.9.9	H27.9.8
9	産業廃棄物処分業		第 04320008464 号	H21.9.30	H28.9.29

※2013.5.16 に熊本県より「優良産廃処理業者」に認定を受けました。

○産業廃棄物処分業(熊本県)

1.事業の全体計画

排出事業所から排出された産業廃棄物を搬入し、計量後、処理前保管場所にて保管する。その後、機械選別ライン・破砕機・圧縮梱包機にて、それぞれ処理を行う。その後は、処理後保管場所に保管し、有償売却、又は処理委託する。

2.処分する産業廃棄物の種類等

(選別) 廃プラスチック類 81t/月・木くず 65t/月・金属くず 3t/月・がれき類 10t/月・紙くず 3t/月・繊維くず 0.5t/月・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 10t/月・ゴムくず 0.1t/月

(破砕・圧縮梱包) 廃プラスチック類 50t/月・金属くず 3t/月・紙くず 5t/月・繊維くず 0.5t/月

○産業廃棄物収集運搬業(熊本県)

1.事業の全体計画

排出事業者から収集運搬の委託を受けた産業廃棄物を自社中間処理施設をはじめ、他の処理施設に運搬する。

2.収集運搬する産業廃棄物の種類等

- ① 廃プラスチック類・木くず・金属くず・紙くず・繊維くず・ゴムくず⇒225t/月
- ② ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず⇒20t/月
- ③ がれき類⇒40t/月
- ④ 動植物性残渣 45t/月
- ⑤ 燃え殻・ばいじん 1t/月



事業概要 3

●施設等の状況

○運搬車両の種類と台数

- ・8tクラム車 1台
 - ・4tフックロール車 2台
 - ・3tユニック車 1台
 - ・3t平車 1台
 - ・2tダンプ車 1台
 - ・4tパッカー車 7台
 - ・2tパッカー車 1台
 - ・軽トラック 2台
- 合計 16台**

○施設の種類と処理する廃棄物の種類、処理能力他

1.選別施設

- ・処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類・木屑・金属屑・がれき類・紙屑・繊維屑・ガラス屑・コンクリート屑及び陶磁器屑・ゴム屑

- ・処理能力 15t/日(8h)
- ・処理方式 手選別及び機械選別ライン

2.破碎施設

- ・処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類

- ・処理能力 4.7t/日(8h)
- ・処理方式 破碎機

3.圧縮・梱包①施設

- ・処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類・金属屑・紙屑・繊維屑

- ・処理能力 廃プラスチック類41.5t/日・金属屑88.5t/日・紙屑63.4t/日・繊維屑44.2t/日(8h)
- ・処理方式 圧縮梱包機

4.圧縮・梱包②施設

- ・処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類・金属屑・紙屑

- ・処理能力 廃プラスチック類3.4t/日・金属屑10.8t/日・紙屑2.9t/日(8h)
- ・処理方式 圧縮梱包機

●会計年度及び環境年度

毎年3月1日から翌年2月末日

●情報公開

- (株)グリーンロジスティクス ホームページ ⇒ [http:// greenlogistics.co.jp/](http://greenlogistics.co.jp/)
- 産廃情報ネット情報開示システム ⇒ <http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/>



事業概要 4

●事業の規模

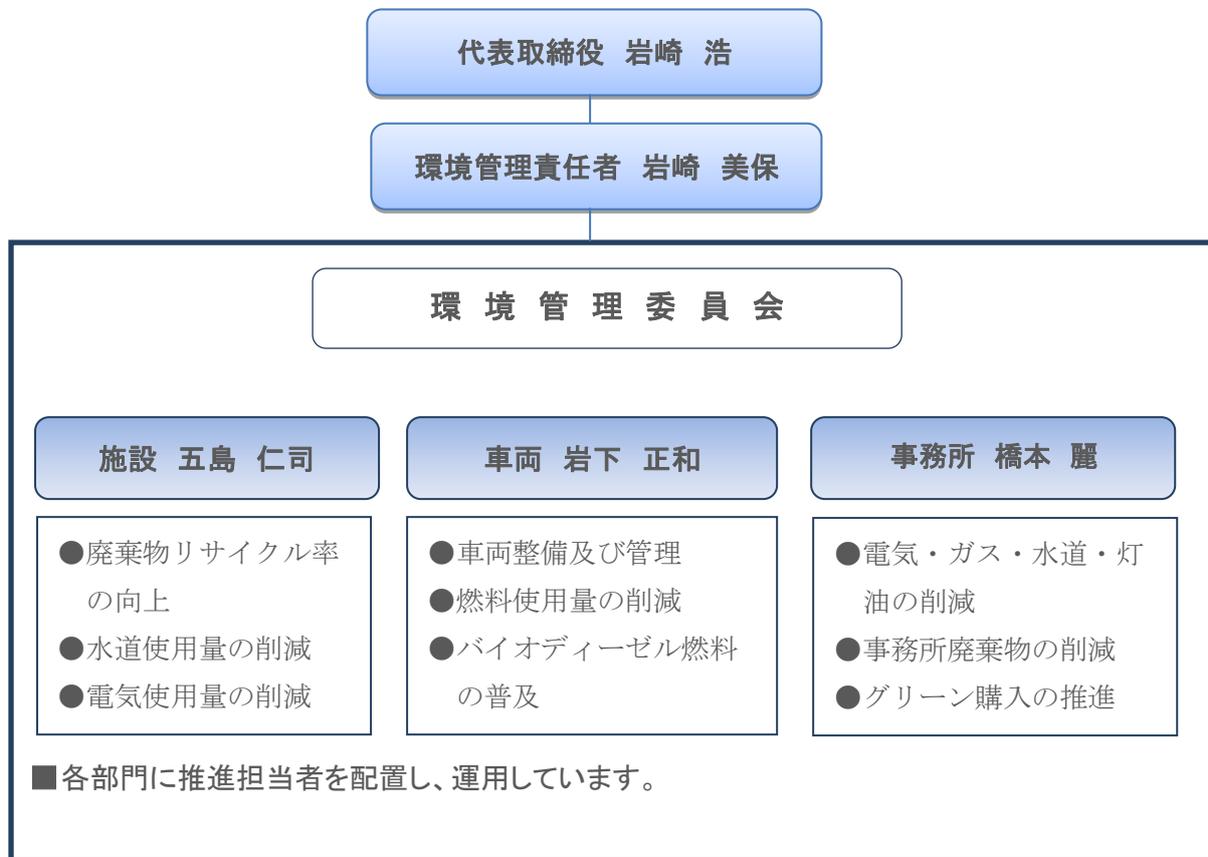
活動規模		単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
売上高		百万円	274	263	226	275	300	319	338
廃棄物 取扱量 (有価物含)	収集運搬	t	7,727	7,710	8,849	10,053	10,527	12,162	12,947
	中間処理	t	2,470	2,528	2,208	4,873	5,311	6,688	6,684
従業員数		人/年	17	19	18	21	22	26	27
敷地面積		m ²	2,193	2,193	2,193	4,999	4,999	4,999	4,999
車両台数		台	15	15	17	17	18	17	18



環境マネジメントシステム



エコアクション 21 組織図



※環境管理責任者の連絡先 (096)293-0743



環境数値目標と実績及び評価

弊社の業務は、一般廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の収集運搬及び中間処理（選別・圧縮・破碎）及び再生資源の加工・販売であり、環境目標を下表のように設定した。

- ①総エネルギー投入量及び④二酸化炭素排出量は、収集運搬車両及び重機の稼働による軽油の割合が高く、業務の量によって変動するため、売上百万円当りの量で環境目標を設定した。

（評価）バイオディーゼル燃料の精製量が前年及び目標に対して、下回った為に目標を下回る結果となりました。

- ③水資源投入量も、収集運搬車両等の洗浄に使用する量が多く、収集運搬車両等の使用頻度によって変動するため、売上百万円当りの量で環境目標を設定した

（評価）目標を達成できました。

- 事務所における②紙資源投入量及び⑤廃棄物等排出量は、事務所の拡張や移転等の計画はないため、紙資源投入量及び廃棄物等排出量で環境目標を設定した。

（評価）従業員の増員があったものの紙資源投入量については、目標を達成できたが、廃棄物については、目標を達成できなかった。

- また、当社の業務は廃棄物の収集運搬及び中間処理業なので、中間処理業で取り扱う廃棄物に係る環境目標を、⑥リサイクル率で設定した。

（評価）目標を達成しました。

	NO	項目	単位	H25 年度		評価	H26	H27	H28
				目標	実績		目標	目標	目標
イン プット	①	総エネルギー投入量	MJ/百万円	13,000	13,857	△	215,00	21,000	20,600
	②	事務所の紙資源投入量	kg	380	376	○	370	360	350
	③	水資源投入量	m ³ /百万円	3.3	3.1	○	3.1	3.0	2.9
アウト プット	④	二酸化炭素排出量	kg-Co2/百万円	830	912	×	900	890	880
	⑤	事務所の廃棄物等排出量	kg	250	267	×	250	240	230
	⑥	リサイクル率	%	80.0	81.3	○	81.5	82.0	82.5

※電力使用量からの二酸化炭素排出量への採用した換算係数:0.387(H26年度より九州電力実排出係数 0.613 を採用予定。それにより目標設定を変更した)

- グリーン購入の目標値を 60%に設定した。



取組み内容と評価①

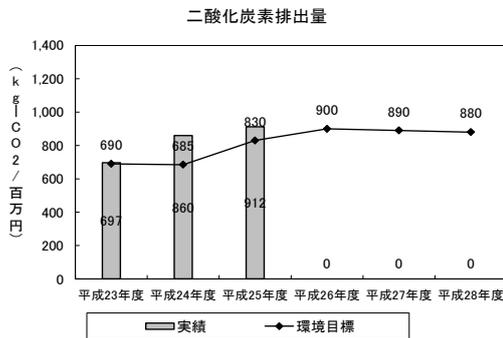
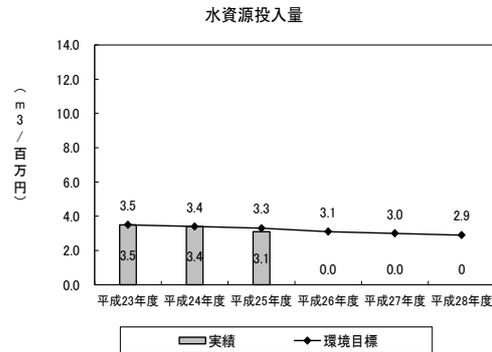
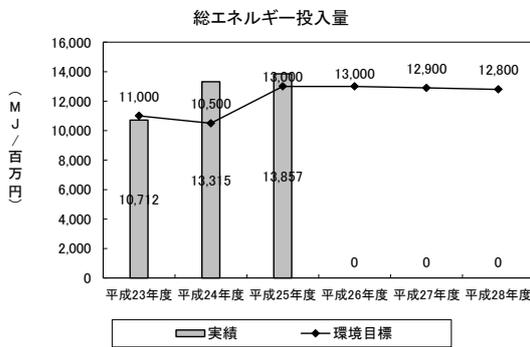
●施設

○総エネルギー投入量・二酸化炭素排出量(電気使用量)の削減

- ・機械選別ライン・圧縮機・破砕機・減容機の省電力に効果的な運転を行う。
- ・2月末に事務所棟、選別棟、圧縮破砕棟に太陽光パネル(84kw)を設置することにより、バイオディーゼル燃料を含めた再生可能エネルギーの生産量を高めていく。

○水資源投入量の削減

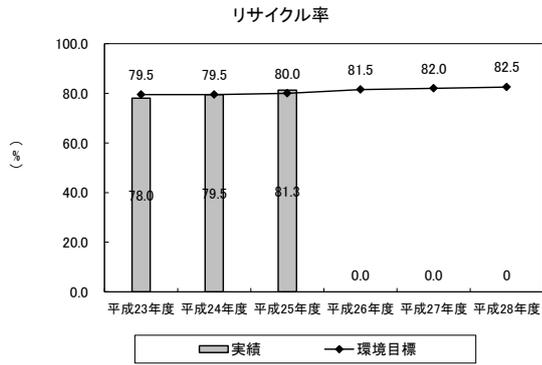
- ・運搬車両の洗車使用量が主である為、節水効果のある洗車機の導入とホースにストッパーを付け、使用量を抑える。
- ・洗車場など水廻りの漏水点検及び補修の実施。



○リサイクル率の向上

- ・圧縮機・破砕機・機械選別ラインをリサイクル率向上に効果的な選別・加工を行い、付加価値を高めた再資源化ができた。
- ・大型破砕機を新たに1台導入して廃プラスチックの材料リサイクルの取扱量を増やすことができた。
- ・排出事業者に対して、再資源化に必要な廃棄物の保管方法等の提案を行う。
- ・廃棄物の分別及びリサイクル研修の実施。

取組み内容と評価 1



■ 施設での取組み評価 ▲ (次年度もこれらの活動計画を継続する。)



取組み内容と評価 2

●車両

○燃料使用量の削減及び車両・重機等のメンテナンス

- ・収集運搬車両及び重機類に、バイオディーゼル燃料使用量(*注1)を増やし、二酸化炭素排出量を削減する。
- ・収集運搬時は、急加速、急発進せず、エコドライブを基本とし、無駄なアイドリングをしない。また、エコドライブ講習会及び車両+重機類のメンテナンス向上講習会を実施。
- ・計量器による積載量のチェックにより、過積載をなくし燃費向上に努める。
- ・中間処理後の廃棄物及び有価物を圧縮・破碎加工することはもちろん、処理委託先及び有価物の売却先への輸送を、4t車から大型車両に変更することで、燃料使用量を削減する。



■車両での取組み評価 …… × (次年度もこれらの活動計画を継続する。)

(*注1)

グリーンパートナー(有)百式の BDF 精製工程の中で使用する化学物質については、パートナー企業同士で適切な管理を行う。



取組み内容と評価 3

● 事務所

○ 電気・ガス・灯油使用量の削減

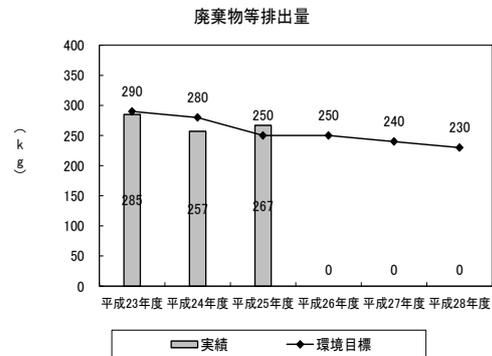
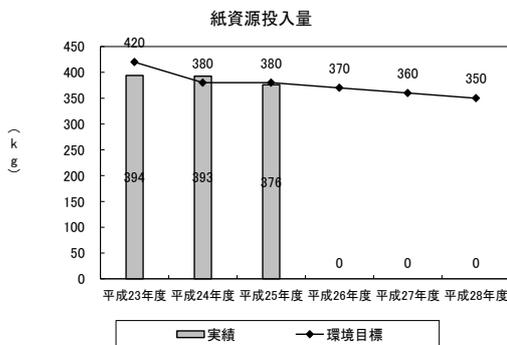
- ・こまめな電源スイッチの入切を徹底する。
- ・エアコンの設定温度を、室内温度が夏は 28℃、冬は 22℃とする。
- ・管理事務所棟のLED照明の取替え工事の実施。

○ 廃棄物の削減

- ・3R(リサイクル・リユース・リデュース)を基本とし可燃物・古紙・ダンボール・ビン缶・ペットと分別を徹底し減量化を進める。
- ・容器包装プラスチック類の分別を行う。

○ 備品・事務用品等の購入は、グリーン商品の購入を推進する。

- ・新たにグリーン購入に対して数値目標を設定した。



■ 事務所での取組み評価 …… ▲ (次年度もこれらの活動計画を継続する。)



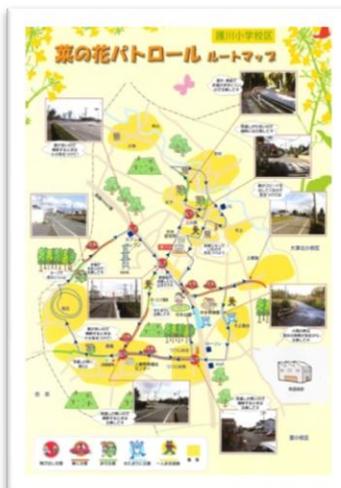
地域環境コミュニケーション1



●その他

○バイオディーゼル燃料の普及

- ・バイオディーゼル燃料を使用した菜の花パトロール車で近隣小学校の子ども達を守る地域防犯パトロールを毎日朝夕2回継続している。**(2008年からの継続活動)**
- ・地域の各行事等にて廃油の回収ボックスを設置し、集めて協力体制がさらに拡大した。
- ・バイオディーゼル燃料の地域販売を目標にかかげ、精製技術の向上と二酸化炭素排出量の削減に努める。



●地域の夏祭りに参加し、わたし達の活動を紹介しました。

(2010年からの継続参加)

地域の「ふれあいフェスティバル」には、地域内外から約800名の参加がありました。会場入口にわたし達の「菜の花パトロール」活動の紹介ができたと同時に地域の皆さまと楽しく、まじめに交流することができました。





地域環境コミュニケーション 2



●近隣小学校との環境学習を実施しました。(2010年からの継続活動)

菜の花パトロール活動を実施する中、護川小学校4年生の皆さんと一緒にバイオディーゼル燃料の精製体験を中心とした環境学習会を行いました。



●近隣小学校に対して、セーフティボランティア及びコミュニティスクールの推進活動に継続参加しています。また、その活動で得た地域通貨「水水」をごみ袋に替えて寄付しました。





環境関連法規・条例・要綱及び全ての要求事項を遵守

○環境関連法規

- ・該当する廃掃法、水質汚濁防止法、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法、土壤汚染対策法、消防法には違反及び訴訟はなかった。

○条 例

違反及び訴訟はなかった。

○要 綱

違反及び訴訟はなかった。

○要求事項(クレーム)

重大なクレーム等はなかった。



代表者による全体評価と見直し



○環境方針

1. グリーン購入推進については、目標数値を設定したが、年度途中に対象物品を増やすなどの検討を行った為、目標数値の見直しが必要となり、環境方針への具体的な取組み目標の記載ができなかった。よって、次年度に具体的に記載することとした。
2. バイオディーゼル燃料と太陽光発電を2つの柱とした再生可能エネルギーの積極的な生産活動を環境方針に追記します。

○環境マネジメントシステム

次年度は、新たな環境管理責任者を環境管理委員会のメンバーより選出して、全社員に対して、更なる主体性を引出し、効果的な活動を行う。(継続検討中)

○環境目標・活動計画及び取組結果の実績と評価

環境目標の実績と結果及び環境活動計画は、環境活動レポートの記載の通り。平成26年度についても、同様の環境活動計画とする。

○次年度の見直し

1. 新設の破碎機により、より効果的に再資源化を行い、リサイクル率を向上させる。
2. 84kwの太陽光パネルを施設内に設置することにより、バイオディーゼル燃料と合わせ再生可能エネルギーの生産を積極的にすすめる。
3. 総エネルギー投入量を「電力投入量」と「化石燃料投入量」の2つの項目に分け、目標設定を行う。そして、「太陽光発電量」及び「BDF 使用量」を記載することにより、再生可能エネルギー生産の貢献度を表現する。
4. 事務所の廃棄物排出量については、人員増加に伴い目標の達成ができなかったが、一人当たりの排出量は前年及び目標値を達成したため、次年度も継続して取り組む。また、次年度からは1人当たりの排出量で目標設定を行う。

○その他

1. 関係法令の徹底遵守の為、グループごとに勉強会・研修・訓練を計画し、実施する。
2. 本年度に熊本県産廃優良業者の認定を受けました。これにより、廃棄物処理業に従事する者として、社会的責任の重大性を認識し、地球環境への配慮を常に念頭に置きながら、適正処理の徹底、コンプライアンスの確立に向け、より一層努力して参ります。

平成26年5月1日
(株)グリーンロジスティクス
代表取締役 岩崎 浩